

## 論文審査の要旨

報告番号	修 第 1292 号	氏 名	永倉 良美
論文審査担当者	主査	楯 玄秀	
	副査	下平 和久	
	副査	加藤 京一	
(論文審査の要旨)			
<p>「昭和大学病院で分離されたリネゾリド耐性菌の耐性機構の解析」の審査では以下の内容要旨の発表が行われた。</p> <p>リネゾリド耐性菌を昭和大学病院検体から6株抽出して(腸球菌4株、黄色ブドウ球菌2株)リネゾリド耐性に関与すると報告されている責任遺伝子(23S rRNA, 50S ribosome subunit L3, L4, L22 をコードする遺伝子、<i>optrA</i> 遺伝子)をPCR法で増幅し、サンガー法で塩基配列を決定した。その結果</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1) 23S rRNA のドメイン V の検討では6株とも既知のリネゾリド耐性に関与する2576G&gt;T 変異はみられず、新規変異も検出されなかった。</li><li>2) 50S リボゾーマルサブユニット蛋白 L3, L4, L22 をコードするそれぞれ <i>rpIC</i>, <i>rpID</i>, <i>rpIV</i> 遺伝子解析ではコドンに1塩基置換がみられたがコードされるアミノ酸は同一であった。</li><li>3) <i>optrA</i> 遺伝子は6株中2株に検出され(両者とも腸球菌) <i>fexA</i> 遺伝子と共にプラスミドに組み込まれていた。<i>fexA</i> 遺伝子と <i>optrA</i> 遺伝子の塩基配列は既知のプラスミド pE349 と同一であったが、これら遺伝子の5'側と3'側は異なっており新規のプラスミドの可能性があった。</li></ol> <p>現在、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌(MRSA)を代表とする薬剤耐性菌が臨床の現場で問題となっており、薬剤耐性機構を解明することは極めて意義があると考えられる。この研究は病院内のリネゾリド耐性菌を検出し、薬剤耐性の原因を追求しており、大変意味のある研究と考えられ、研究結果も修士論文に値すると判断された。今後は <i>optrA</i> 遺伝子を組み込んだプラスミドの全塩基配列が決定され新規のプラスミドか否かの検討や薬剤耐性の分子機構の解明など次世代の研究に発展することが期待される。</p>			